

ほいだいの後援会活動

日頃より後援会活動にご理解ご協力賜り感謝申し上げます。
後援会は、大学の教育事業等への支援を通じ、教育理念達成に寄与することを目的とし、大学の協力のもと活動しています。主な支援活動につきまして、紹介いたします。

学生会支援	いずみ祭・サークル活動への支援等、学生会予算への全額補助
教育支援	成績表送付代金の全額補助、国家試験模擬試験代の一部助成
施設整備	仁戸名キャンパス通学路を明るく照らす外灯の電気料金、お弁当を温かく食べるための電子レンジや電気ポットの設置、快適に受講するための椅子やブラインド、ワイヤレススピーカーやプロジェクタ等の新調、防災備蓄品の補充と管理ほか
入学・卒業支援	生花、学位記卒業証書入れ及び卒業記念品の贈呈、卒業記念写真撮影費用の補助
広報活動	広報誌「いずみ」発行、後援会ホームページ運営



運営にあたっている理事は、全員、県内外在住の保護者です。今後も、親目線で温かく学生に必要な支援を行ってまいります。

ご意見・お問い合わせはこちらへ
mail@hoidai-kouenkai.com



令和6年度 千葉県立保健医療大学 行事予定

令和6年	4月3日(水)	入学式
	7月13日(土)・14日(日)	オープンキャンパス(幕張キャンパス)
	10月13日(日)・14日(月)	いずみ祭(大学祭)
	11月16日(土)	特別選抜(学校推薦型、社会人選抜、編入学)
令和7年	2月25日(火)	一般選抜
	3月13日(木)	卒業式

●お願い● 広報誌についてご意見をお送りください

本広報誌は、大学の日頃の活動をお伝えるために発行することになりました。創刊号は、本学の研究プロジェクトや学生活動や、社会貢献のうち、「ほいだい健康プログラム」「公開講座」、そして後援会の活動についてご紹介いたしました。

今後、広報誌をより充実した内容にしたいと、読者のご意見をお聞かせいただきたく、お願い申し上げます。二次元バーコードから「広報誌アンケート」にアクセスして回答してください。氏名やメールアドレスなど回答者の個人を特定する情報は取得いたしません。どうぞ貴重なご意見をお聞かせいただけますようお願いいたします。



ほいだい



デュアスロン世界選手権 U-23 6位入賞者インタビューのご紹介

令和5年4月29日(土)、スペインのイビサ島で開催されたデュアスロン世界選手権において、栄養学科4年の千葉美奈(チバミイナ)さんが、総合(年齢制限の無い女子の部)23位、23歳以下女子の部で6位に入賞しました。今回は学外活動でもご活躍中の千葉さんに大会での経験について、インタビューしましたのでご紹介します。



Q 今回の大会が自分にとってどんな経験・糧となりましたか？

A 今回のレースの目的は、海外でのレースを経験し、世界の中での自分の立ち位置について把握する事など、競技に関して学んでくると、海外レースでの選手の食事の実際について見てくることでした。

将来アスリートの栄養サポートを行いたいと考えているので、海外レースでの食事について、実際に経験したからこそ伝えられることを見つけられたことが、管理栄養士を目指す者としての大きな糧となりました。

なお、本記事は大学HP掲載中の内容の一部をご紹介するもので、これ以外にも入賞時の思いやデュアスロンという競技の魅力、競技と学生生活の両立についてもお話を聞いています。より詳しくご覧になりたい方は是非大学HPにアクセスしてください!!



←大学HPに掲載中の記事はコチラ
<https://www.pref.chiba.lg.jp/hoidai/gakusesekatsu/duathlonu23interview.html>

千葉県立保健医療大学長より 千葉県立保健医療大学広報誌の創刊にあたって～ポストコロナの課題～



千葉県立保健医療大学長
龍野 一郎

2020年初頭に始まり、3年にも及んだ新型コロナウイルス感染症との戦いも、保健医療従事者の連携並びに一致団結した県民の皆様の感染対策へのご理解・ご協力によって終息を迎えることができましたが、我々を取り巻く環境は依然として厳しく、少子高齢化、自然災害(気候変動に伴う台風などの異常気象、地震、感染症の襲来)、都市部への一極集中、貧困(経済格差)などの課題が山積しています。これらの課題は疾病構造の変化、社会基盤の弱体化、社会保障費の増加などを通して、急速に地域保健医療の状況を悪化させてきています。加えて、ソサエティー 5.0(技術革新社会)という時代の転換点にあり、デジタルトランスフォーメーション(Dx)を取り込んだ革新的な保健医療の改革が求められています。千葉県は2025年までの後期高齢者人口の増加率が全国でトップになると見込まれており、地域保健医療が抱える様々な課題の解決に向かって千葉県立保健医療大学の貢献が大いに期待されています。

本学は2009年4月に千葉県立衛生短期大学と千葉県医療技術大学校を統合し、1学部4学科2専攻：看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・リハビリテーション学科(理学療法学専攻、作業療法学専攻)、2キャンパスからなる4年制大学です。本学では基本理念として、「高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成」、「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」、「地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成」、そして「千葉県の健康づくり政策のシンクタンク機能」を掲げ、少数精鋭主義で、将来社会に実践的に還元できる各分野の指導者となる健康づくりプロフェッショナルの育成を目指しています。加えて、本学ではDxを始めとする革新的な保健医療の研究も推し進めており、これらの活動を通し、広く県民の皆様の健康に資する所存です。

本学では基本理念として、「高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成」、「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」、「地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成」、そして「千葉県の健康づくり政策のシンクタンク機能」を掲げ、少数精鋭主義で、将来社会に実践的に還元できる各分野の指導者となる健康づくりプロフェッショナルの育成を目指しています。加えて、本学ではDxを始めとする革新的な保健医療の研究も推し進めており、これらの活動を通し、広く県民の皆様の健康に資する所存です。

大学研究プロジェクト活動紹介 「新型コロナウイルス感染症流行が千葉県の高齢者に与えた影響」

新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)のパンデミックの中、千葉県立保健医療大学の全学的研究課題として「コロナ流行による行動制限が高齢者に与える影響」が挙げられました。この研究課題に対して、各学科の教員によるプロジェクトチームを発足させました。2022年4月からスタートし、以下のような課題に取り組んでいます。

プロジェクトにおける課題

- ① 千葉県の介護保険データを利用し、コロナ流行による要介護度認定者数の推移を把握
- ② 千葉県の高齢者施設の管理者向けのアンケートによるコロナ流行の影響に関する実態把握
- ③ コロナ流行前後での千葉県内の協力自治体の特定健診等データの変化の分析

高齢者への身体面・認知面への影響

コロナ流行は我々にさまざまな制約を与えてきました。その一つに行動制限があります。とくにその影響が大きかったのは高齢者であり、身体機能低下(体力や筋力の衰え)・日常生活能力低下(トイレなど身の回りのことをする能力の低下)・記憶力低下・意欲低下(やる気低下や気分の落ち込み)・認知症の進行(発症)等を引き起こしたことが報告されています(公益社団法人日本介護福祉士会、2022)。実際、コロナ流行による行動制限が、千葉県民の身体面や認知面にどのような影響を与えたのかについて調査を進めています。



高齢者施設職員への影響

コロナ流行は高齢者施設利用者だけでなく、それを支える介護職員にも大きな影響を与えたと考えられますが、その実態については十分に把握できていません。そこで、本プロジェクトでは、高齢者施設の職員にフォーカスを当て、業務内容の変化や身体的・心理的負担の程度を調査しています。千葉県内でも多くの高齢者施設でクラスターが発生し、職員の労働環境がコロナ流行の影響を強く受けたと考えます。アフターコロナの時代を元気に過ごすためには、引き続きの感染対策に加え、千葉県民の健康状態の変化を正しく把握したうえで、今後どのような活動を積極的に実施していくべきかを検討していきたいと思っています。



ほい大健康プログラム紹介

千葉県においては少子高齢化が進展する中、特に高齢者人口の急増が見込まれており、超高齢社会に対応した良質な保健医療提供体制の充実が課題となっています。千葉県立保健医療大学は県内唯一の県立大学として、地域に根差した保健・医療・福祉の知の拠点として、千葉県の取り組みに貢献していくことが期待されています。

このような背景をもとに、本学では、すべての学科の教員と学生が一体となり、地域の皆様に健康支援を提供する「ほい大健康プログラム」を実施しています。平成29年からはUR都市機構と連携協定を結び、千葉市内のUR団地の高齢者を対象に、ソーシャルキャピタルを基盤にした介護予防プログラムの普及活動に取り組んでいます。令和3年度からは大学を拠点とした健康教室を計画し、本学の歯科診療室を利用する60歳以上の地域住民を中心に、オーラルフレイルに焦点をあてたプログラムを実施しています。さらに、令和4年度からはいすみ市とも協力し、現在は、UR団地、歯科診療室、いすみ市の3拠点でほい大健康プログラムの展開を行っています。参加者からは知識が増えた、物事に前向きになった、新しい友人ができたなどの感想をいただいています。

令和5年度は右記のプログラムを実施しました。



令和5年度公開講座紹介



対面開催時の様子

千葉県立保健医療大学では、教育研究の成果等を広く地域社会に還元し、県民の教養を高め、文化の向上に寄与する目的で、公開講座を開講しています。2009年の本学開学以降、コロナ禍で急遽中止となった2020年度を除いて、毎年開講しており、千葉県内外から多くの受講者がご来場くださっています。2021年度以降はオンラインでの開催にもチャレンジしてきました。

2023年度はメインテーマを「人生100年時代を元気で乗り切るために」として、第1回目を対面にて、第2回目をオンラインにて開催しました。具体的な講義内容は以下の通りです。

公開講座は今後も毎年開催していきますので、よろしければぜひご参加ください。詳細は大学ホームページをご参照ください。

メインテーマ	日程	講演内容	講師
人生100年時代を元気で乗り切るために	令和5年10月8日(日) 13:00～15:40	よい眠りを誘って健康寿命を延ばそう！ 脳から考える心と身体の健康	看護学科 准教授 田口 智恵美 栄養学科 教授 加瀬 政彦
	令和5年10月22日(日) 13:00～15:40 zoom開催	“呼吸”のリハビリ ～からだを動かして健康増進～ 健康寿命の延伸はお口の健康から ～口腔機能の衰えを予防しましょう～	理学療法学専攻 講師 稲垣 武 歯科衛生学科 准教授 佐々木 みづほ